

十月も半ばとなり、朝の冷え込みも徐々に厳しくなってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

開院当初より、福岡新水巻病院の医局の先生は皆、社会的常識人であるということは何度か申してまいりました。私も長く若い医師の指導を任された立場から、本当に社会が求めている医師像についてずっと考えてきました。言いたいことは山のように有りますが、これまでうまく文章にまとめる事ができませんでした。最近、研修医の指導を主たる業務として、アメリカで長くやってこられた先生の文章を読むことができました。医師に必要な二つの素養として、

①Availability (いろんな求めにすばやく応じる) ②Affability (愛想の良さとスマイル) ③Ability (患者を治す能力)。「なるほど!、でも、これは自分がこれまでやってきたそのものだ!」と思い、嬉しくなりました。医師は患者さんを治す知識・技術が無いとダメだ。しかし患者さんや職員に対し、威張ってはいけない、優しくなくてはいけない、思いやりをもたないといけない、教育もしなければならぬ。夜でも休みの日でも、診察の依頼があれば喜んでせ参じ、これこそ我が人生の生き甲斐と、率先して診療に当たる。いやな顔をするなど有り得なく、いつも笑顔を絶やささない気さくな医師。私もまだまだ未熟者で到底及びませんが、そういう心根を持って、診療に当たりたいし、また後輩の指導に当たりたいと考えます。

最近嬉しかったこと。裏の職員喫煙所(ここはいろいろと苦情の標的となっている場所ですが)でのこと。ある新聞記者の方からお褒めをいただきました。記者さんが通ると、気さくに「こんにちは」と言ったそうです。ちょっとした触れ合いから安心感が生まれたり、よく教育ができてると褒められたりします。ところが逆に、受付が挨拶すらできないとレベルが低いとか、なっていないとお叱りを受けます。職員教育も医師の仕事ですから、きちんと成し遂げたいと思います。

地域活動も少しずつですが、進んできました。今月十九日には渡辺副院長率いるリコーダフルテットによる演奏会が当院八階で催されます。(入場無料) また、二十六日には遠賀川ふれあいウォーキングがあり、当院からも多数参加予定です。院内で地元住民の方への勉強会・講習会も始まっています。活発な御参加をお待ちします。第8章。

